北九州市立文学館 ニュース

# 文学の栞（しおり）

Kitakyushu Literature Museum News

第19号

2016年3月31日発行

## 「北九州市立文学館文庫」の刊行

館長　今川　英子

東日本大震災から五年が経ちました。戦後最大の自然災害に原発事故が加わるという巨大惨禍に、復興は道半ばというままならない情況が続いています。

他方で、格差社会、政治、経済、アジア外交の諸問題や世界各地で起きるテロなど、あらゆるところで近代合理主義の行き詰まりと知や教養の軽視を肌で感じます。本当はどうあらねばならないのか、何を望むのかと自問しながら、どこかでゆるぎない言葉を文学に探し求めています。明るい未来を描けなくても、人が持つ倫理観や美しさを感じる心、それら非合理な、けれども人間を豊かにするものは、日々の暮らしや営みの中できっと引き継がれていくに相違ないと信じるのです。

今年は杉田久女没後七十年。一月二十一日の命日には、小倉北区の圓通寺で恒例の「久女忌」が執り行われ、今回は特に久女研究の第一人者である坂本宮尾先生にご講演をいただきました。これまでは作品よりもいわゆる久女伝説のほうに関心が注がれた感がありましたが、近年は研究が進み、多くの論考や資料の博捜によって事実が徐々に解明され、作品のみの真価によって久女再評価の機運が盛り上がろうとしています。この機に応じ、文学館でも既刊の『杉田久女句集』に加え、俳句作品以外の優れた評論や随筆を収めた『久女文集』を刊行する予定です。女性俳句の草分けであり、樋口一葉、与謝野晶子と並び称される久女作品を是非、手にとって読んでいただきたく存じます。

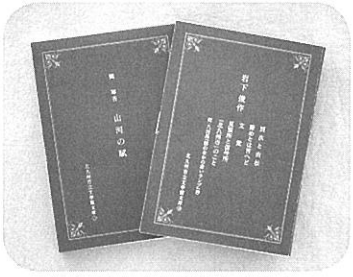
また、今年はかつて北九州のみでなく九州の文学を牽引した火野葦平、岩下俊作、劉寒吉、矢野朗の生誕百十年にもあたります。文学館では開館時に生誕百年を記念して、「火野、岩下、劉展」を開催し、三人の代表作を収めた『文学館文庫①』を刊行。このたびは新たに岩下の短・中編の代表作と、劉の「山河の賦」を収めた文学館文庫をそれぞれに刊行することになりました。

前者には「富島松五郎伝」（のち「無法松の一生」）以後の直木賞候補作品のほかに、岩下が勤務した八幡製鐵所を舞台に、当時の「鉄は国家なり」と謳った時代背景と労働者の実態をリアルに描いた短編を収めました。

後者は第二次幕長戦争に材をとり、長州軍に追われながら小倉軍を鼓舞し続け最後まで戦った勇将、小笠原藩家老島村志津摩を描いた長編歴史小説です。

文学館文庫は、絶版など入手困難になったな北九州ゆかりの作家の名作を開館当初から順次復刊、十一冊になりました。

街の記憶を刻みながら、そこに生きた人間の苦悩や迷い、喜びや悲しみや勇気を描いた作品は、今、この街で生きようとする私たちに誇りと愛着を教えてくれることでしょう。



北九州市立文学館文庫⑩⑪

## 目　次

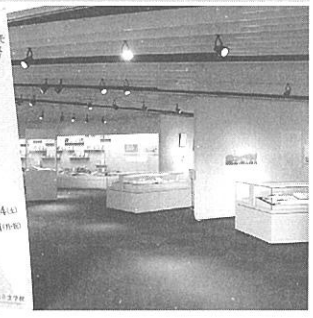
「北九州市立文学館文庫」の刊行 …… 1
第21回特別企画展　ブンガク最前線－北九州発 …… 2
新聞記者による記念座談会 …… 3
リリー・フランキーさん原稿寄贈式、開会記念トーク
文学館での講演会
村田喜代子さん講演会 …… 4
高橋睦郎さん × 伊藤比呂美さん対談
平野啓一郎さん × 田中慎弥さん対談
平出隆さん公開講義
第６回「あなたにあいたくて生まれてきた詩」コンクール表彰式 …5
第７回 子どもノンフィクション文学賞表彰式・最相葉月さん講演会
第２回 林芙美子文学賞表彰式 …… 6
第２回 林芙美子文学賞記念トーク
文学館セミナー
全国文学館協議会2015年度共同展示　北九州と３・11 …… 7
ロビー展
高文連デザインコンペ作品展示会
第38回 光草書道展「江戸文学を書く」
女性の眼と句で綴る演劇公開選句ライブ
佐木隆三さんお別れの会
受賞、お悔やみ
夏の特別企画展　宮西達也ワンダーランド展 …… 8
－ヘンテコリンな絵本の仲間たち－
第23回特別企画展　没後20年記念企画展 司馬遼太郎展（仮称）
文学館文庫⑩・⑪　刊行
寄贈者・提供者、提供雑誌

北九州市立文学館 第21回特別企画展

# ブンガク最前線

## 北九州発

2015.10.24（土）～2016.1.11（月・祝）



平成27年秋の特別企画展は「ブンガク最前線―北九州発」を開催いたしました。

現在執筆を続けている北九州ゆかりの作家35名を紹介しました。原稿、校正稿、創作ノート、メモなどの自筆資料、書籍、およそ４００点を展示。作家の皆さまからの資料提供、ご寄稿などのご協力により、充実した展示となりました。

ご紹介した作家は、次の方々です（敬称略）。芥川賞作家の村田喜代子、平野啓一郎、藤野千夜、田中慎弥。直木賞作家の佐木隆三、葉室麟。歴史小説・時代小説分野では秋山香乃、佐伯泰英、指方恭一郎、鳥越碧、堀和久。児童文学分野では神沢利子、竹下文子、まはら三桃。推理小説分野では加納朋子。ノンフィクション分野では桟比呂子（佐々木博子）、林えいだい。医療、歴史、サスペンスなど幅広いテーマで小説を執筆する帚木蓬生。ホラー小説、アウトロー小説などを執筆する福澤徹三。日常の情景をシンプルな言葉で表現した小説が魅力の山崎ナオコーラ。エッセイで人気の高い中村うさぎ。写真とエッセイを組み合わせた著書も多い写真家・藤原新也。フランス文学者で小説やエッセイも執筆する山田稔。詩、評論、小説などジャンルを超えた執筆を行う高橋睦郎、平出隆。地元で執筆活動を行う岩森道子、後藤みな子、波佐間義之、深田俊祐。映画監督として活躍し小説でも評価を得ている青山真治、タナダユキ。マルチな活躍をみせる松尾スズキ、リリー・フランキー。赤瀬川隼、尾辻克彦（赤瀬川原平）については、追悼の意を表し紹介いたしました。

ゆかりの作家原作、監督作品の映画ポスターの展示は、松永文庫、小倉昭和館にご協力いただきました。また、小倉昭和館では会期中、リリー・フランキー出演作品、村田喜代子原作作品、松尾スズキ、タナダユキ各監督作品など、映画の協賛上映をいただきました。

多様なジャンルで活躍されているゆかりの文学者を知っていただけた展覧会になりました。

### アンケート

・郷土にこれほど多くの作家がいらっしゃることを知り、身近に感じることができました。（50代・女性）

・改めて北九州の良さを感じ、とても誇らしく思えました。（40代・女性）

・作家の寄稿文がとても興味深く、この地域の魅力を感じた。（40代・女性）

・作家の原稿や思いに触れることができ、小説を読みたいと思った。北九州が文学の最前線にあることが分かり頼もしく思った。（60代・女性）

・鳥肌が立ちました。北九州は「文学の街」！（40代・男性）

## 新聞記者による記念座談会

大矢和世さん（西日本新聞社）、鳥居達也さん（朝日新聞社）、右田和孝さん（読売新聞社）、米本浩二さん（毎日新聞社）

司会・進行　今川英子

平成27年10月24日

テーマは北九州の文学の特異性と地域性について。大矢記者は、「ジャンル横断的」に活躍されている方の多さを挙げ、近代化の激変を経験したことで街自体に多様性が生まれた点に注目。鳥居記者は、北九州の「土臭さ」、「働くことと書くことの往復運動」から生まれるエネルギーが地下水脈としてあり、作家の文体やテーマに滲み出ていると話され、合併前の旧五市の地域性が未だ濃厚で発掘されていない素材があるので、腰を据えて書く作家が生まれて欲しいと期待を込められました。右田記者は、労働文学の流れが少なからず現在の作家にも受け継がれていることを指摘。米本記者は、広く記録文学などを例に挙げ、新しいものを生み出すことと同様に、伝えられてきたものを言葉でつないでいくことも文学の本来の働きだと話されました。

## リリー・フランキーさん 原稿寄贈式、開会記念トーク

（聞き手　館長今川英子）

平成27年10月24日

展覧会にあわせ、リリー・フランキーさんの小説『東京タワー～オカンとボクと、時々、オトン～』の自筆原稿650枚をご寄贈いただきました。原稿は万年筆で書かれ、力強く達筆で直しがほとんど見られません。

寄贈式では、梅本和秀副市長に原稿が手渡され、続いてのトークでは、直筆原稿は「作家の体温、机やインクの匂いが感じられる。原稿を見て書くことに興味を持ってもらえたら嬉しい」と話されました。また、掲載雑誌「エンタクシー」の担当編集者で原稿所有者だった壱岐真也さんを交え、執筆時のエピソードを披露。壱岐さんは、リリーさん宅に泊まりこみ原稿を待ったとのこと。リリーさんは、「編集者によって原稿の質は変わる。壱岐さんがいなかったら完成していない」と振り返りました。

壱岐真也さん　リリー・フランキーさん

## 文学館での講演会

### ○第1回　後藤みな子さん「私の帰郷ー浦上」

平成27年11月7日

小説「刻を曳く」を、「刻を曳きながらも、未来へ向かって生きていかなければならない」という厳しいお気持ちで書かれたこと。松原新一先生との出会いをきっかけに雑誌「すとろんぼり」が生まれ、再び小説を書き始められたこと。「樹滴」執筆後、ようやく浦上へ魂の帰郷ができたと感じられたことなど、強いご覚悟をもって文学に向き合われたことをお話されました。

### ○第2回　福澤徹三さん「作家という職業」

平成27年11月14日

20種類以上の職業を経験された福澤さんが、作家を職業として成り立たせる難しさを話されました。現代はネット社会や古書市場の拡大で、新刊本が売れなくなり、書店が少なくなっている現状を紹介。実際に本屋に足を運んで判断することが減り、メディアのランキングが売上げに影響するため、読者を意識した商業的な戦略も必要だとお話されました。

### ○第3回　桟比呂子（佐々木博子）さん「知りたい。知ってほしい。」

平成27年11月28日

ご自身の「知りたい」というお気持ちから多くの人に「知ってほしい」という気持ちが生まれ、執筆の原動力になっていると話されました。カネミ油症事件被害者に取材した小説『化石の街』以降、山野炭坑ガス爆発事故や赤字ローカル線などをテーマに執筆。今後も「自分の目で確かめたこと」を書き、伝えていきたいと述べられました。

### ○第4回　まはら三桃さん「創作活動について」

（聞き手　学芸員小野恵）

平成27年12月19日

幼少の頃から物語が好きで詩や短いお話を書かれるようになったこと、子育て中の忙しい日々に読書の時間が救いになったことなど、創作の原点をおうかがいできました。また、宮沢賢治の『銀河鉄道の夜』の「鳥を捕る人」の一場面を紹介され、物語を創作するというより、すでに「どこかにある物語をとりに行く」感覚で執筆されていると話されました。

## 村田喜代子さん講演会

平成27年10月21日
北九州芸術劇場小劇場

「鹿児島で考えたこと　癌治療と震災の春」と題し、村田喜代子さんの講演会が行われました。

村田さんは2012年春、癌の放射線治療のため鹿児島に約一ヶ月滞在しました。折しも東日本大震災に伴う福島原発事故、桜島噴火の発生と時期が重なり、「光」や「原子」へ関心を持ち始めます。治療を終えると毎日本屋に立ち寄り、物理や化学、量子力学、宇宙物理学などの関連書を読み勉強する日々を送りました。

病気になられてからは、「樹木」が人間に見え親しみを持つようになったとのこと。歌人渡辺松男氏の樹木を歌った短歌を数首挙げ、宇宙を意識しその不思議さを表現した歌への共感を話されました。また、人間は亡くなったあとも原子として循環することを、宇宙物理学者の池内了氏の著書を引用しながら紹介されました。鹿児島での一ヶ月は「辛いけれども懐かしいまたとない日々」だったと振り返られました。

村田喜代子さん

## 高橋睦郎さん×伊藤比呂美さん対談

平成27年11月20日
旧大連航路上屋
（門司港「揺らぎ」の芸術祭との協働開催、西日本新聞社共催）

伊藤比呂美さん　高橋睦郎さん

詩人二人による対談「世界ゆらぎ、人もゆらぎ」を開催。高橋さんを「師匠」と慕う伊藤さんが、創作の原点や人柄の魅力に迫りました。

高橋さんは小学校一年生の時、八幡から門司に移り住み、門司で海と出会ったことで生まれた「向こう側」の感覚や、幼少の頃耳にした語りや歌などの古い言葉が詩を書く原点になっていると話されました。詩は書こうと思って書くことはなく「向こう側」から思いが降りてくる、一種の「憑き物」と同じようなものだと例えました。

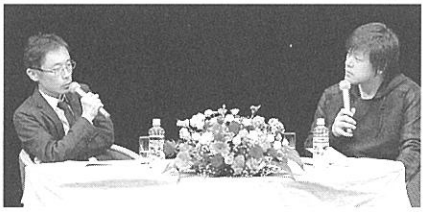
上京後、高橋さんは三島由紀夫と出会います。第二詩集『薔薇の木 にせの恋人たち』を贈った縁から、第三詩集『眠りと犯しと落下と』の跋文を書いてもらったエピソードなどを披露。自身の詩を数編朗読され、来場者は高橋さんの声と言葉の力強さに引き込まれました。

## 平野啓一郎さん×田中慎弥さん対談

平成27年11月27日
北九州芸術劇場中劇場
（毎日新聞社共催）

芥川賞作家のお二人による対談。高校まで北九州で過ごした平野さんは、通学の電車から工業地帯の風景を眺め、この街で生きていくことの不安や自身の存在について考え始めたそうです。「地方」で育ったことが「アイデンティティ」の一つとして残り、創作の源になったと話されました。田中さんは、下関の「うら寂しくがらんとした風景」―人工的な海岸や平日の魚市場―を目にし、体験的に得た「孤独な感覚」を意図的に作品に取り込んできたといいます。北九州も下関も「かつて栄えていた街の欠落感」を持つ点で共通しているのではと指摘されました。

今後について平野さんは、続いてきた日本文学との連続性を保ちながら仕事を続けていきたいこと、作家生活10年目で東京に拠点を移した田中さんは、あえて厳しい環境に身を置くことでこれから何が生まれてくるか挑戦したいと話されました。


田中慎弥さん　平野啓一郎さん

## 平出隆さん公開講義

平成27年12月11日
西日本工業大学（小倉キャンパス）

「プライベート・プレス――手法と未来」と題し、詩人で多摩美術大学教授の平出隆さんの講演会を、西日本工業大学デザイン学部の講義（一般聴講可）として開催しました。

「プライベート・プレス」とは、活字や挿絵などのデザインや装幀、印刷、発行まですべてを行う出版の形式です。講義では、19世紀イギリスに遡る歴史から、平出さんが立ち上げた出版社（via wwalnuts 社）で発行を続ける手紙形式の書籍制作の試みまで幅広く紹介されました。

現在、活版印刷が再び注目を集め印刷機の新シリーズが製造され始めているそうです。インターネットが発達しても、電子書籍に移行し得ない「モノ」として書籍は存在し続けるだろうと話されました。今後も工夫次第で新しい本のかたちが生まれ、多くの人が発行者になり得ると書籍出版の未来への可能性を伝えられました。

平出隆さん

## 第6回「あなたにあいたくて生まれてきた詩」コンクール表彰式

平成27年12月12日

北九州市立文学館では、北九州市出身の詩人・宗左近、みずかみかずよを顕彰するとともに、子どもの豊かな表現力を伸ばすことを目的に、「あなたにあいたくて生まれてきた詩」コンクールを実施しています。今年度は、市内外から昨年度を大幅に上回る2366作品もの応募がありました。表彰式は文学館交流ステージで行われ、最終選考委員の平出隆さんによる講評や、最優秀賞受賞者による詩の朗読が行われました。

表彰式終了後に高山保材さん指揮の北九州市小倉少年少女合唱団、北九州少年合唱隊のミニコンサートが行われ、宗さん、みずかみさん作詞の美しい歌声が文学館に響き渡りました。

**受賞者　小学生の部（敬称略）**

宗左近賞＝黒澤礼紗（八王子市立秋葉台）、みずかみかずよ賞＝大石寛子（戸畑中央）、北九州市長賞＝畑中絆希（企救特別支援）、北九州市教育長賞＝五郡開人（上津役）、北九州市立文学館長賞＝水島知周（宇都宮市立中央）、佳作10名、学校賞＝北九州市立枝光小学校、北九州市立香月小学校

**受賞者　中学生の部（敬称略）**

宗左近賞＝川田ハンナ（明治学園）、みずかみかずよ賞＝伊藤晴香（篠崎）、北九州市長賞＝木下若葉（松山市立西）、北九州市教育長賞＝有久優菜（熊西）、北九州市立文学館長賞＝畑朝日（熊西）、佳作10名、学校賞＝松山市立西中学校、北九州市立高生中学校

## 第7回 子どもノンフィクション文学賞表彰式・最相葉月さん講演会

平成28年3月27日

第7回を迎える子どもノンフィクション文学賞の表彰式を行いました。

今年度は国内外から小中学生あわせて570編の応募があり、その中から小学生の部＝新池谷　悠さん（前橋市立桃井小学校）の「カイコとわたしの物語」、中学生の部＝三品　怜温さん（ラ・サール中学校）の「夜光虫」が大賞作品として選ばれました。また、学校賞には北九州市立小石小学校、ホーチミン日本人学校、香川大学教育学部附属坂出中学校、梅光学院中学校が選ばれました。

文学館交流ステージで行われた表彰式では、大賞2名のほかに、佳作4名、選考委員特別賞6名と学校団体賞4校に賞が贈られました。

表彰式に出席した受賞者たちは、北橋市長や選考委員から楯と副賞を贈られ、緊張の面持ちながらも、大変うれしそうに受け取っていました。

表彰楯と副賞授与の後、選考委員の皆様からご講評いただきました。

応募作品は、例年以上にレベルが高く、選考委員の皆様方は、選考にとても苦労したとおっしゃっていました。

表彰式終了後は、最終選考委員でノンフィクションライターの最相葉月さんの講演会（朝日新聞社共催）を開催しました。

「ノンフィクションを書いてみよう！」をテーマにした講演会には、受賞者をはじめとする70名が参加し、熱心に聞き入っていました。

最相葉月さん

## 第2回 林芙美子文学賞 表彰式

平成28年2月27日

第2回林芙美子文学賞（事務局＝北九州市立文学館）の表彰式が、北九州芸術劇場中劇場で開催されました。

全国から寄せられた975編の応募作品の中から、横浜市在住の高山羽根子（たかやま はねこ）さんの「太陽の側の島」（たいようのがわのしま）が大賞に選ばれました。

表彰式には最終選考委員である井上荒野さん、角田光代さん、川上未映子さんのほか、文学館関係者、地元関係者、議員など多数の方が出席し、会場の400名の入場者とともに受賞を祝いました。

最終選考会では大変完成度の高い作品として全員一致で高山さんの作品が大賞と決定され、今年度は佳作該当なしとなりました。受賞した高山さんは「これからも書き続けようという強い力をいただいた思いです。読んでいただいた方に失望されないように、いっそう精進いたします。」と喜びを述べました。

選考委員の先生方からはそれぞれ講評をいただき、今回応募した方のみならず、小説家を志す方への非常に貴重なアドバイスと励ましとなりました。

林芙美子文学賞をきっかけとして、作家の道を進むべく執筆に熱を入れる方、文学に触れて楽しいと感じてくださる方が増えていくことを願って、地域の皆様にもご協力を賜りながら、さらに素晴らしい賞に育ててまいります。

大賞受賞者
高山羽根子さん

## 第2回 林芙美子文学賞 記念トーク

平成28年2月27日

（朝日新聞社共催、第一生命保険株式会社協賛）

第2回林芙美子文学賞表彰式が行われた同日、井上荒野さん、角田光代さん、川上未映子さんの3人の選考委員による記念トークが、「作家と生活」というタイトルテーマで北九州芸術劇場中劇場にて行われました。

人気作家3人が一堂に会してトークをする機会が少ないうえに、先生方の普段の生活について伺うことができるとあって、応募者多数の大変賑やかなトークとなりました。

本となった作品からだけでは知ることのできない、作家の生活という踏み込んだ内容について、今川館長の進行により普段仲の良い3人の話にも花が咲き、期待以上のお話を先生方ご自身が語ってくださいました。来場者の方からは「驚きとともに大変満足した」「また来年もぜひ実施してほしい」など、非常に満足度の高いアンケート結果を得ることができました。

今川文学館館長　井上荒野さん　角田光代さん　川上未映子さん

## 文学館セミナー

### 平成27年度後期

平成27年10月～平成28年3月

平成25年から始まった文学館セミナーも今期で6回目を迎え、今回から文学館友の会との共催事業となりました。実施概要は以下の通りです。

**○書く**＝講師・後藤みな子さん（作家・北九州文学協会理事長）……原稿用紙4枚程度のエッセイを発表し講師のアドバイスを受けた。　参加15名

**○知る**＝講師・渡瀬淳子さん（北九州市立大学准教授）……百人一首などを題材にくずし字の基礎演習を行った。　参加15名

**○読む**＝講師・岩本真理子さん（北九州市立大学教授）……四季に合わせたドイツ語詩の読解・鑑賞を行った。　参加13名

### 平成28年度前期

平成28年4月～9月

**書く**＝後藤みな子さんの文章講座。
第1水曜　定員15名

**知る**＝渡瀬淳子さんのくずし字講座。
第2金曜　定員15名

**読む**＝倉本昭さんの「雨月物語」講座。
第3土曜　定員30名

※時間はすべて13時30分～15時

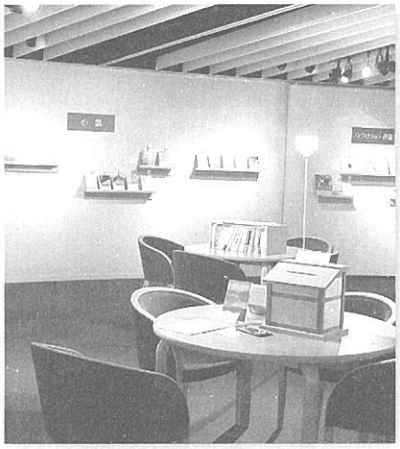
## 全国文学館協議会 2015年度共同展示 北九州と3・11

平成28年3月11日～3月31日

東日本大震災から5年を迎えました。全国文学館協議会では例年、この未曾有の大災害を見つめ、死者への鎮魂と被災者への慰藉を祈る思いで共同展示を行っています。

文学は、3・11以後の社会と意識の変化をもっとも敏感に察知し、表現しようとしてきました。本展では、金原ひとみ『持たざる者』、藤谷治『あの日、マーラーが』など、二〇一五年度に発表された作品をはじめ、約90冊の〈震災後文学〉を紹介しました。

また本年も、北九州市危機管理室の協力を受け、北九州市が大震災以来行ってきた被災地支援の様子をお伝えしました。



## ロビー展

### ◆第11回檜山荘子ども俳句大会

平成27年10月24日～12月27日

大賞を受賞した企救特別支援学校中学部3年中野翔太さんの作品「鹿の子を見下ろす金剛力士かな」など135作品を展示しました。

### ◆第9回北九州文学賞・第6回北九州芸術祭ジュニア部門川柳優秀作品展

平成28年1月5日～2月28日

北九州文学協会文学賞では特選を受賞した松村華菜さんの「よく笑う母の大きなフライパン」、河野成子さんの「ことばにも文字にも出来ぬ愛もある」など53作品を展示しました。

第6回北九州芸術祭ジュニア部門北九州市長賞を受賞した志井小学校一年大崎逞叶さんの「ヒーローになってへいわをまもりたい」、高須中学校二年水摩礼さんの「好きな子と夢の世界で初デート」、篠崎中学校三年森美佳子さんの「通訳で世界をつなぐ架け橋に」など60作品を展示しました。

## 高文連デザインコンペ 作品展示会

平成28年2月16日～21日

平成27年度全国高等学校文化連盟によるデザインコンペ優秀作品の展示会を行いました。

## 第38回 光草書道展「江戸文学を書く」

平成28年2月27～3月6日

小倉南区で活動する光草書道会の作品展を行いました。「東海道中膝栗毛」「南総里見八犬伝」をはじめ、漢詩や歌舞伎、芭蕉、一茶、蕪村の俳句など、江戸時代の文学作品を書で表現しました。

会期中には、板坂耀子さん（福岡教育大学名誉教授）による特別講話も行いました。

橋村雅榮書

## 女性の眼と句で綴る演劇 公開選句ライブ

平成27年12月13日

二ヶ年にわたり、俳句をモチーフに現代女性を描く演劇シリーズです。

第2弾作品のために公開選句ライブを開催。選者は、句会イベント「東京マッハ」で知られる千野帽子さんと劇作家の鵜飼秋子さんが務めました。入選句等、詳細は北九州芸術劇場HPでご覧下さい。

**受賞**

寺井谷子さん（俳誌「自鳴鐘」主宰）が第7回桂信子賞を受賞されました。

## 佐木隆三さんお別れの会

平成27年12月9日

北九州芸術劇場小劇場

北九州文学協会主催、北九州市立文学館事務局

当館の佐木隆三名誉館長が、平成27年10月31日、逝去しました（78歳）。

訃報を受け、多くの方が文学館へ記帳に訪れたほか、後日、お別れの会が開かれました。親交の深かった直木賞作家の古川薫さんはじめ、村田喜代子さん、イラストレーターの黒田征太郎さんらが思い出を語られ、故人を偲びました。

**お悔やみ**

●佐藤泰正さん（平成27年11月30日）元梅光女学院大学学長。宮沢賢治賞受賞。中原中也賞選考委員。アルス梅光公開講座（文学館共催）講師。

●水上平吉さん（平成28年2月9日）児童文芸誌「小さい旗」主宰。妻のみずかみかずよと共に北九州市民文化賞受賞。文学館主催「あなたにあいたくて生まれてきた詩」コンクール選考委員。

ご冥福をお祈り申し上げます。

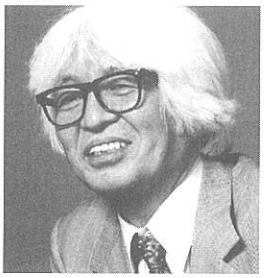
## 第23回特別企画展予告

### 没後20年記念企画展 司馬遼太郎展（仮称）

司馬遼太郎没後20年を記念した巡回展（企画・産経新聞社、監修・司馬遼太郎記念財団）。司馬作品の全貌を自筆原稿、初版本、歴史資料等で紹介する。

**開催期間**

**平成28年10月22日(土)～12月4日(日)**



撮影：井上博道

## 文学館文庫⑩・⑪刊行

『文学館文庫⑩　岩下俊作』

収録作品：「辰次と由松」「諦めとは言へど」「文覚」「見張所と信号所」「『北九州市』のこと」

附・八田昂『霧の中の赤いランプ』（抄）

『文学館文庫⑪　劉寒吉』

収録作品：「山河の賦」

岩下俊作

劉寒吉

文庫は文学館および書店クエストで販売しています。ぜひ手に取ってご覧ください。

TATSUYA MIYANISHI WONDERLAND EXHIBITION

## 宮西達也ワンダーランド展

夏の特別企画展予告

―ヘンテコリンな絵本の仲間たち―

**2016.7.23(土)～9.19(月・祝)**

「おまえ うまそうだな」2003年　©宮西達也

### ■寄贈者・提供者

秋吉久紀夫、東保司、阿部誠文、有元伸子、飯塚書店、一条真也、井生定巳、今川英子、岩井英司、上西昭南、内田聖子、大石聡美、大阪俳句史研究会、大貝晃章、大本律子、岡田功、株式会社沖積舎、沖俳句会、尾崎淳子、小田勝彦、鬼塚京史、㈱音楽之友社、かごしま近代文学館、（公財）かすがい市民文化財団、神奈川近代文学館、花粉期同人会、鎌倉文学館、北九州川柳作家連盟、北九州市立美術館、北九州市立松本清張記念館、北九州市立八幡図書館、一般社団法人北九州中小企業団体連合会、「京大俳句」を読む会、㈱紀伊國屋書店出版部、久保田裕子、熊本学園大学出版会、ＮＰＯ現代文化女性研究所、高知県立文学館、こおりやま文学の森資料館、国立民族学博物館、小原福恵、さいたま市教育委員会 生涯学習部生涯学習振興課、さいたま文学館、指方恭一郎、事業構想大学院大学、（公財）四国民家博物館、坂井ひろ子、品川洋子、白沢英子、白根友吉、新宿区地域文化部 文化観光課、杉田重男、鈴木正明、世田谷文学館、川内まごころ文学館、鷹取美保子、高梁比庵会、高橋睦郎、田島道孝、田中時彦、千綾光男、調布市武者小路実篤記念館、鶴岡市立藤沢周平記念館、寺田良治、徳島県立文学書道館、轟次雄、轟良子、富川明子、中西輝磨、中原中也記念館、中村青史、西尾市岩瀬文庫、西川幸夫、日本近代文学館、日本現代詩歌文学館、日本現代詩歌文学館振興会（公財）一ツ橋綜合財団「詩歌文学館賞」事務局、公益社団法人日本文藝家協会、野田宇太郎文学資料館、能村研三、野田敦子、波佐間義之、波戸辺のばら、八田昂、葉山修平、原田暎子、原田慶子、姫路文学館、福岡市文学館、福岡ユネスコ協会、福澤徹三、福本弘明、ふくやま文学館、藤康一郎、堀内幸枝、本田久子、前橋文学館、松本洋一、南川隆雄、森鷗外記念会、森鷗外記念館、柳生じゅん子、屋敷信子、山口公和、山内克士、行橋市歴史資料館、吉村千穎、リリー・フランキー、渡辺考

### ■提供雑誌

藍、avanti、青嶺、馬醉木、あしへい、花鶏、穴生文芸、あん、いのちの籠、色鳥、海、沖、海峡派、詩誌 回游、北九州文化、九州俳句、九州文學、九大日文、久我山通信、群炎、月刊俳句界、玄海、こだま、左岸、季刊・川柳樹樹、自鳴鐘、周炎、船団、川柳くろがね、川柳むらさき、タルタ、太郎の部屋、小さい旗、伝書鳩、天籟通信、とびうお、新墾、虹野、詩誌 胚、ひびき、ふだんぎ北九州、ふよう、水城野、八雁、溶鉱炉、與謝野晶子研究

2016年3月31日 発行

**北九州市立文学館**

〒803-0813
北九州市小倉北区城内4-1
TEL 093-571-1505
http://www.kitakyushucity-bungakukan.jp/

■ **開館時間**
9:30～18:00（入館は17:30まで）

■ **休館日**
毎週月曜日（月曜日が休日の場合は翌日）
年末年始

■ JR小倉駅より徒歩15分　■ JR西小倉駅より徒歩10分
■ 勝山公園バス停より徒歩1分　■ 北九州市役所前バス停より徒歩2分
■ 小倉北区役所前バス停より徒歩2分
■ 北九州都市高速大手町ランプより2分
■ 駐車場は文学館最寄りの各有料駐車場をご利用下さい